

令和2年度
事業計画

社会福祉法人

太良町社会福祉協議会



太良町社協理念

豊かな自然の中で共に

やってみよう

福祉の町づくり

目 次

基本方針	4
重点事項	5
I. 地域福祉活動部門	
1. 相談・個別支援・地域支援	6
①「生活のお困りごと相談所」の開設	
②生活困窮者の発見に向けた取り組み	
③コミュニティソーシャルワークの機能強化	
④「認知症のお困り事相談所」の開設	
⑤収入が無く自活できていない30代から60代がいる世帯の実態把握調査実施	
2. 住民生活の支援	7
①子育て相互支援事業	
②移送サービス事業	
③家族介護者支援事業	
④日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）	
⑤高齢者生活管理指導員派遣事業	
⑥就労習慣づくり支援事業「めばえ」	
⑦福祉機器貸出事業	
⑧災害援護事業	
⑨福祉資金貸付事業	
⑩生活福祉資金の活用と償還指導（事業主体；佐賀県社協）	
⑪しおさい館学習会（学習支援事業）	
⑫じーばの仲間クラブ	
⑬認知症総合支援事業	
⑭高齢者の「働きの場」創設事業（シニアマスター事業）	
3. 住民生活向上の支援	10
①生きがい対応型デイサービス	
②一人暮らし高齢者お楽しみ会	
③元気づくり教室事業	
④障がい者ふれあい研修会	
⑤サロンしおさい	
⑥手話講習会の開催	
⑦竹の子の里事業	
⑧サンタがおうちにやってくる事業	
⑨ふれあいバスの運行事業	
⑩地域介護予防教室（太良元気塾）の実施	
⑪ふれあい・いきいきサロン事業の支援	
⑫太良町元気で長生き・イキイキとした幸せのまちづくり事業（生活支援体制整備事業）	

4. 団体の育成支援	13
①地域福祉活動助成金制度	
②地域福祉活動支援・育成事業	
5. 福祉意識改革・教育	14
①活動者に対する具体的な支援	
②学校ボランティアへの支援	
③災害救援ボランティアセンター事業	
④ボランティア連絡協議会に対する支援活動	
6. 募金等の活動	15
①共同募金活動及び事務処理・管理・運営	
②ポストショップ運営事業	
③太良町支会としての赤い羽根共同募金活動	
④24時間テレビチャリティー募金活動	
⑤日本赤十字社佐賀県支部太良町分区	
7. 福祉関連団体への支援等	16
①戦没者遺族会への支援	
②太良町民生委員児童委員協議会への支援	
③太良町老人クラブ連合会への協力	
④シルバー人材センター事業	
II. 経営部門	
1. 介護保険法関連介護サービス事業	16
①総合事業（第1号通所事業・通所型自立サービス）の実施	
②総合事業（第1号訪問事業・訪問型サービスB）の実施	
2. しおさい館指定管理事業	17
①サービスの質の充実	
②しおさい館PR活動	
③しおさい館管理運営	
III. 法人運営部門	
1. 法人組織の管理と運営	18
①理事会及び評議員会の開催	
②役職員等の研修会開催	
③自主財源の安定的な確保	
④社会福祉法人制度改革への対応	
⑤会計及び庶務業務の円滑な遂行	
⑥福祉推進員の活用	
2. 法人組織の広報・啓発	18
①広報・啓発活動業務	

1. 基本方針

「住み慣れた地域で、自らが望む生活をできるだけ続けていきたい。」誰もが抱く願いです。

しかし、少子高齢化により地域の支え合いの力は一層低下し、核家族化・未婚化の進行など家庭内の支え合い機能も低下しています。更には、経済情勢の変化やグローバル化により、日本型雇用慣行も大きく変化しています。従来の日本の社会保障制度の基礎となっていた血縁、地縁、社縁という「共同体」の機能が著しく脆弱化しています。また、近年の急速な人口減少により、あらゆる分野で社会の担い手が不足しており、地域社会の継続そのものが懸念されています。高齢者、障がい者、生活困窮者などの中には、地域とのつながりや社会参加の機会に十分に恵まれていない方も散見されます。

重大な課題が山積する一方、日常生活を営む上での、身近で些細な困りごとへの対応を求められるケースも増えてきております。もはや既存の福祉制度での対応は困難となり、財政面からも今までの福祉政策は限界を迎えています。

制度・分野ごとの「縦割り」や「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、地域や一人ひとりの生活の多様性を前提とした、人と人、人と社会がつながり支え合う環境づくりへの取り組みが求められています。そのためには、住民自らが主体的に地域課題を把握し、解決を試みる体制づくりが不可欠です。社会的孤立や排除をなくし、誰もが役割を持ち、お互いに支え合っていくことができる地域共生社会を創出し、それを文化として定着させていくことが重要です。

令和2年度は、「ともに生きる豊かな地域社会」（全社協福祉ビジョン2020）の実現に向けた取組を強化するため、①断らない相談支援（本人・世帯の属性に関わらず受け止める相談支援）、②参加支援（本人・世帯の状態に合わせ、地域資源を活かしながら、社会とのつながりを回復する支援）、③地域づくりに向けた支援（地域社会からの孤立を防ぐとともに、地域における多世代の交流や多様な活躍の機会と役割を生み出す支援）の3項目による包括的な支援体制の構築を目指します。

地域包括ケアシステムへの全町的な取り組みの中、本会が傾注すべきは介護予防・生活支援の拡充であるとの認識の下、既存の制度や概念にとらわれない柔軟な発想と即応性を発揮し、社協独自のネットワークを最大限活かした互助を基盤とする伴走型支援体制の整備に積極的に取り組みます。

また、客観的視点から真摯に事業評価を実施するとともに、社会福祉法人としてのガバナンスと事業運営の透明性の更なる拡充を図ります。

太良町社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的機関として、「豊かな自然の中で共にやってみよう福祉の町づくり」という基本理念に基づき、令和2年度事業を実施します。

2. 重点事項

1) 住民参加による地域福祉の推進

- ①「生活のお困り事相談所」を開設し、アウトリーチを含む包括的な相談対応により、地域住民の日常生活における困り事を集める
- ②個人や地域が抱える困り事を地域住民・専門機関等と連携し、既存の社会資源を基に、寄り添いながら解決する
- ③2025年問題を見据え、また、地域の多種多様なニーズに対応すべく、地域住民や関係機関と連携しながら高齢者の介護に関する体制を整備する
- ④高齢者の健康寿命を延ばす活動として介護予防事業を強化・推進する
- ⑤乳幼児から児童生徒に至る子育て世帯への階層的な支援事業の展開
- ⑥将来的な福祉的人材不足を補うため、ボランティア等を活用した新たな社会資源として、地域住民自らによる福祉活動を強化する

2) 経営部門の充実と財政基盤の安定

- ①社会福祉法人制度改革による社会福祉法の改正に伴う経営組織のガバナンスの強化と事業運営の透明性の向上、財務規律の強化を図る
- ②補助・行政受託事業以外の自主財源事業の安定的な経営
- ③しおさい館の健全な管理運営並びに新規利用者の獲得に努める
- ④コスト意識の徹底による不要経費の削減
- ⑤会員加入促進並びに共同募金運動の充実強化による自主財源確保

3) 広報・啓発活動の推進

- ①機関紙及びホームページ掲載内容の充実による情報発信力の向上
- ②情報発信拠点としてのしおさい館の有効活用
- ③ケーブルテレビや新聞等のメディアを活用した情報発信

I . 地域福祉活動部門

1. 相談・個別支援・地域支援

①「生活のお困り事相談所」の開設

「生活のお困り事相談所」は、住民が日常生活を営む上で、多様な要因で解決方法を見いだせず困っている事柄に対し、その原因を探り、相談者に寄り添いながら、また、地域住民の支え合う力の活用・関連機関との連携・或いは新しいサービスや仕組みを構築しながら解決策を見つけ、日常生活の改善に寄与することを目的とする。

【主な取り組み】

- ・お困り事相談員の配置。
- ・お困り事相談所の周知活動
- ・解決に向けた地域や他機関等との連携（お困り事解決ネットワーク）。
- ・地域課題に合わせた新しい取り組み（住民活動）や制度（サービス）の構築。

②生活困難者の発見に向けた取り組み

職員一人ひとりが、日常業務や、地域の関係機関・住民との関わりの中から、制度の狭間や支援につながりにくい生活課題を抱えた生活困難者を、積極的に発見し相談・支援につなげていく。

【主な取り組み】

- ・各職員の発見能力の向上。
- ・深刻な生活課題を発見するための訪問活動（積極的なアウトリーチ）。
- ・他機関では対応できない困難なケースの受入。

③コミュニティソーシャルワークの機能強化

社会情勢の変化に伴い、地域や世帯が抱えている問題が複雑化し、現行のサービスでは対応が難しくなっている。そのため、社会福祉協議会は、これらの地域課題に対し、関係する団体や地域住民と一緒に解決策を考え、また、柔軟かつ的確に対応できるよう調整支援を必要に応じ実施する。

【主な取り組み】

- ・生活困難者を支援するため、関係者（関係機関）との連絡調整を行う「ゆたたりネットワーク会議」を開催
- ・地域が抱える生活課題を住民との話し合いの中から解決する「やってみゅう“き”地域座談会」を開催
- ・地区住民相互支援活動計画（〇〇地区やってみゅう“き”活動計画）の策定と支援

④「認知症のお困り事相談所」の設置。

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、まず認知症が原因で生活の弊害となっている事項を相談の中から明確にし、問題解決を図る際は、関係機関と緊密に連絡調整を行い、当該認知症高齢者とその家族や近隣住民を支援する。

更に、認知症高齢者が地域で安心して暮らすために必要な地域課題にも目を向け、判断能力が低下した高齢者等であっても生活できる地域づくりを目指す。

- ・認知症地域支援推進員の配置。
- ・支援を要する高齢者の早期把握と対応。
- ・認知症高齢者が円滑にサービスを受けられるよう関係機関とのネットワークを構築。
- ・認知症ケアに携わる多職種協働のための研修を実施。
- ・地域課題に対し関係機関や地域住民と連携し、必要に応じ新しい取り組み等を検討・実施。

⑤収入が無く自活できていない30代から60代がいる世帯の実態把握調査の実施。

中高年のひきこもりと困窮が問題視されている昨今、太良町においても生活のお困り事相談所や地域の民生委員・ケアマネジャーから対象となるようなケースの情報提供が増えてきている。今のところ同居する生計者（年金受給の親）に依存することで生活を維持できているが、生計者が死亡もしくは高齢に伴っての医療福祉の費用が増えると生活を営むことが難しくなり、その結果、同居する生計者と共倒れする場合も想定される。

今回の調査の目的は、長期に亘って同居する主たる生計者に依存して生活している世帯を調べ、調査結果から地域の状況を把握し、課題を探ることである。

※状況に応じ、「中高年のひきこもり」をテーマとした講演会を実施する。

2. 住民生活の支援

①子育て相互支援事業

- ・協力会員（ボランティア）が『子供を一時的に預かる』等の活動（有料）。
- ・子育て中の親子を対象とした『木曜日のぼっかぼか広場』の実施。

②移送サービス事業

在宅で日常的に車椅子を利用している方を対象に、『車椅子専用車』で通院等の移動を支援する。

③家族介護者支援事業

在宅で介護している方を一時的に介護から解放し、介護者相互の交流とリフレッシュの機会を作る。

(具体的な内容)

いきぬきサロン (同日開催：サロンしおさい)	開催日 毎月第1土曜日 目的 当事者同士の相互交流を図る
家族介護者交流事業	開催日 年2回 目的 在宅介護者のリフレッシュ

④日常生活自立支援事業 (福祉サービス利用援助事業)

高齢者、知的障害者、精神障害者などが日常生活を送る上で契約等の判断能力が不十分な場合、『生活を営むための情報提供・助言、諸契約、サービスの利用、支払い等』を代行して行う有料の事業。

(具体的な内容)

- ・行政サービスを利用するために必要な諸契約代行業。
- ・重要書類など(通帳等)の管理作業。
- ・支払いなどの代行作業。

⑤高齢者生活管理指導員派遣事業

介護保険非該当の高齢者等を対象に、対象者の日常生活に対する指導・支援を行い要介護状態への進行を予防するため、生活管理指導員を派遣する事業。

⑥就労習慣づくり支援事業「めばえ」

町内には障害や長期に亘る引きこもり、コミュニケーション力が低いこと等が原因で、就職できず将来に不安を抱えている住民がいる。それらの住民を対象に、公的な就労支援事業に移行する前段階(習慣性のめばえ)の支援を行う。

⑦福祉機器貸出事業

介護保険を利用していない高齢者や障害者世帯等を対象に、ベット及び車椅子を貸し出す事業。

⑧災害援護事業

町内在住の世帯で、自宅の火災によって全焼と判断された場合に、見舞金を支給する事業。

⑨福祉資金貸付事業

町内に在住する低所得者で、生活を維持するために必要な資金を、規定の範囲内で貸付ける事業。

⑩生活福祉資金の活用と償還指導（事業主体：佐賀県社協）

低所得世帯・高齢者世帯・障害者世帯等の自立更生を促すため、佐賀県社協が運営する生活福祉資金貸付制度の利用窓口としての役割を果たす。

資金貸付後は、担当民生委員と協力して支援や指導を行い、滞納者に対しては自宅訪問や面接等を実施し償還を促す。

⑪しおさい館学習会（学習支援事業）

子どもの将来が、その生まれ育った環境によって左右されることのないよう、家庭の経済的事情により、十分な学習意欲を持っているものの、学習塾や家庭教師等による受験対策の機会が望めない生徒に学習の機会を提供し、貧困の連鎖防止の一助とすることを目的に高校入試受検直前の中学3年生を対象に実施する。

⑫じーばの仲間クラブ

昨今の急激な未婚化、晩婚化により結婚適齢期の独身者が増え、人口減少の大きな要因となっている。高齢者に、その豊富な人生経験と知恵を活かして、それぞれの希望・条件に叶った男女を紹介し、個別に出会いの場を設けて縁結びをしてもらうことが最善の方法と考え、町老人クラブ連合会に依頼する。高齢者にとっても、生きがいづくりとなることを期待する。

⑬認知症総合支援事業

【主な取り組み】

- ・認知症サポーター養成講座を開催し「認知症サポーター」を育成する。
- ・「認知症地域支援推進員」認知症の人の早期発見・早期対応のため地域包括支援センターや関係機関間のネットワークの中で認知症疾患医療センターと認知症初期集中支援チームと連携し適切な支援に繋げる。
- ・「認知症カフェ」認知症の人やその家族、支援者やサポーターなどを対象に交流の場を提供する。

⑭高齢者の「働き場」創設事業（シニアマスター事業）

地域には年金が少なく低収入で生活をしている高齢者が増えている。働きたいと思っているが、高齢者が働ける場が少ないこと、また、身体機能が低下している高齢者の働ける場が無いことが地域の課題となっている。

今後は、収入を必要とする高齢者に、仮令身体機能が低下しても仕事ができる機会を作ることが求められる。また、仕事をすることによって生きがいづくりや、介護予防にも繋がると考えられる。本事業は、身体機能が一部低下している高齢者であっても軽度な作業をし、収入を得る「高齢者が働ける場」の創設を試みるための事業である。

3. 住民生活向上の支援

①生きがい対応型デイサービス

生きがいづくり・健康づくり・介護予防を目的とした通所サービス事業。

- ・対象⇒要介護・要支援認定非該当の方、とじこもりがちな方（高齢者）
- ・基本サービス⇒移送、バイタルチェック、食事、入浴、レクリエーションなど

【行事】（季節に応じた活動）	【介護予防】
<ul style="list-style-type: none"> ・ バスハイク ・ 誕生会 ・ 敬老会 ・ クリスマス会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健棟健康機具を使った健康維持訓練 ・ 介護予防教室 <ul style="list-style-type: none"> 運動機能向上（理学療法士） 認知症予防支援（作業療法士） 口腔機能向上（歯科衛生士） 栄養向上指導（管理栄養士）

②一人暮らし高齢者お楽しみ会

75歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、歳末たすけあい事業としてのお楽しみ会を、太良町民生委員児童委員協議会と共催で開催する。

③元気づくり教室事業

町内の65歳以上の高齢者を対象とした介護予防教室を実施する。

- ・ 3B体操 ⇒ ボールやベルダー等を使った健康体操教室
- ・ 童謡を歌おう ⇒ 懐かしい童謡を歌い、脳の活性化やストレス解消を行なう教室
- ・ 絵手紙教室 ⇒ 絵手紙を描くことで脳の活性化を図る認知症予防教室
- ・ 筋力アップ教室 ⇒ トレーニング機器を活用し筋力アップを図る介護予防教室
- ・ 脳の健康教室 ⇒ 読み書きや計算で認知症の予防を行なう教室
- ・ 男メシ道場⇒料理を通じた介護予防や不測の場合に備えた男性限定の料理教室
- ・ デジカメ撮影塾⇒プロのカメラマンがデジカメ撮影技術を指導し趣味の充実を図る
- ・ お絵描き教室⇒イラストレーターが水彩画などの描き方を指導し趣味の充実を図る

④障がい者ふれあい研修会

町内在住の身体障がい者の相互交流とふれあいを目的とした研修に対し助成する。

⑤サロンしおさい

地域から孤立しがちな方、コミュニケーションが苦手な方、精神的に不安定な方等が気軽に集える居場所として活用し、必要に応じて各種相談員が相談援助を行う。

⑥手話講座の開催

地域に住むすべての方を対象に、『聴覚障がい者に対する理解を深めること』と『手話の技術向上』を目的として手話講座を開催する。

⑦竹の子の里事業

夏休み期間、町内在住の小学4年生から6年生を対象に、地域のボランティアと一緒にさまざまな体験活動を実施するとともに、長期休業中の保護者の負担軽減を図る。

⑧サンタがおうちにやってくる事業

商工会青年部と共に、幼児を対象に、青年部部員がサンタに扮して訪問し、プレゼントの配付や記念撮影等を通じて、子供達の「思い出づくりや夢づくり」を叶える事業。

⑨ふれあいバスの運行事業

町内の福祉、教育関係団体等が実施する研修等を目的とした事業に対し、社会福祉協議会所有の福祉バスを活用した移動援助を行う。

⑩地域介護予防教室（太良元気塾）の実施

介護を必要としない元気な高齢者を増やすため、身近な地域で介護予防カリキュラムに基づいた介護予防教室を実施する。

- ・介護予防教室は高齢者が集まりやすい場所（地区）で実施。
- ・介護予防アドバイザーが講師となってカリキュラムを実施。
- ・介護予防アドバイザーの募集と育成。

⑪ふれあい・いきいきサロン事業の支援

ふれあいいきいきサロンは、民生委員・福祉推進員・ボランティア等が中心となり、地域で孤立しがちな高齢者・障がい者・子育て中の親等に、月に数回、身近な会場に集まってもらい、ゆっくりと寛ぎ、地域との関わりを維持してもらうことが目的である。本会は地域の支援者が円滑に活動できるよう育成や援助（助成等）を行う。

- ・実施に必要な情報の提供。
- ・運営に必要な経費の助成。

⑫太良町元気で長生き・イキイキとした幸せのまちづくり事業（生活支援体制整備事業）

2025年に団塊世代が後期高齢者となり、本格的な超高齢社会を迎えるに対し、「最後まで自立して、住み慣れた地域で生活を送りたい」という住民の希望を叶えるため、地域住民や関係機関・行政などのあらゆる関係者の理解と協力を得ながら、太良町に合った新たな相互支援の仕組み作りを推進している。

本事業では、まずは“元気な高齢者”を増やしていく事が重要と考え、住民・関係機関等に対し働きかけ意識の共有を図る。次に“住み慣れた地域で安心した生活を続けら

れる地域作りを目指す”事を推進するために、住民自身が地域の生活課題を我が事として感じられる機会と住民が参画し話し合いができる場（協議の場）を提供し続ける。

ア. 地域課題解決の話し合い推進

第1層協議体

第1層協議体は、地域ケア会議・お困り事相談等から集まった生活課題を、地域住民と関係機関が集まって整理・分析し、住民が自主的に活動する相互支援の方向性を示すこと。また、必要に応じ校区（多良エリア・大浦エリア）を対象とし展開する第2層と連携し、全域・校区（エリア）の状況を踏まえ、活動への提案を行うため話し合う（協議する）を行う組織である。

第2層協議体

第2層協議体は、校区（各エリア）の状況を踏まえながら、地域にある社会資源・協力いただく住民と、高齢者の介護予防や安心した生活を追求するための活動の実践方法を、住民の目線で話し合い（協議する）、実践していく組織である。

イ. 地域資源を活用した“元気な高齢者づくり”活動

高齢者の介護予防教室等マップ（地図）づくり

地区にある一般介護予防教室や高齢者が自主的に行っている予防活動（サークル活動等）の利用方法をまとめたマップ（地図）づくり。

高齢者の介護予防等マップを、居宅介護支援員（ケアマネージャー）が活用しやすくするための情報交換等を行う。

ウ. 住民の介護予防に対する意識改革等を行う啓発活動

各地区や集会等へ出向き、介護予防活動や将来の地域生活のあり方などについての啓発活動を実施する。

啓発活動の内容や種類について、協議体や地域包括ケアシステム研究会などの協力を得ながら開発を行う。

エ. 住民の自主的活動に対する支援

幸せの町づくりサポーター活動について、研修会などを開催し、活動者の技術向上を行い、人材育成に取り組む。

幸せの町づくりサポーター活動から派生した生活支援活動・介護予防活動をクラブ化し、住民活動の自主性と専門性を強化する。

住民活動の有料化について住民・関係機関・協議体にて話し合い、研究する。

オ. 総合事業等に関する事業展開と定着化

訪問型サービス B（活動者の確保と研修会の実施）

□協議体などによって開発、提案された活動の事業化

カ. 地域包括ケアシステム研究会への参加と協力

キ. 生活支援コーディネーターの資質向上（研修会等に参加し知識・技術の向上を図る）

4. 団体の育成支援

①地域福祉活動助成金制度

地 域 助 成	地域住民の相互支援（ゆたたりネットワーク）のための必要経費への助成を行う。 ・ 対象経費⇒燃料費・会議費・賃借料・備品購入・消耗品など。 ・ 申請対象⇒対象者が生活を行なう区を申請単位とする。
団 体 助 成	地域住民が「しあわせ」を実感するために、社会福祉協議会で必要と判断した取り組みや活動に対して助成を行う。 ・ 対象経費⇒講師謝金・燃料費・消耗品・備品など。 ・ 申請対象⇒営利を目的としない地域住民団体。

②地域福祉活動支援・育成事業

備 品 等 貸 出	地域住民や団体が地域福祉活動を行う場合に、社会福祉協議会が所有する備品等や会場を無償で貸し出す。
人 材 派 遣	地域住民や団体が地域福祉活動を行う場合に、さまざまな人的支援が必要となる。社会福祉協議会で連絡調整を行い、必要な人材を派遣する。
人 材 確 保 人 材 育 成	地域の活動者（人材）を確保するためには、意識向上と資質向上を目的とした養成事業が不可欠となる。好事例紹介する講習会や先進地視察等を実施し啓発活動を行なう。また、ホームページ等での活動紹介も積極的に実施する。 また、活動するにあたって感じている疑問点などを整理し、共通する課題を解決するための研修会などを行う。

5. 福祉意識改革・教育

1) 地域住民の福祉意識の向上を目指す。

児童生徒に対する福祉意識の向上。

町内の児童生徒の福祉に対する『興味』や『関心』を高め、将来の人材育成につながるよう支援する。

- ・総合学習への派遣（学校に職員が出向き、福祉の学習指導をする）
- ・福祉体験学習の実施（障がい者や職員が出向き、福祉体験学習を開催する）
- ・職場体験の受入れ（社協や福祉に興味のある学生を職場体験者として受け入れる）

2) 地域住民の福祉活動を支援する（ボランティアセンター事業）。

日頃から地域でボランティア活動を行う者や団体の活動支援を行う。また、ボランティア連絡協議会の支援を行う。

①活動者に対する具体的な支援

- ・活動者に対する情報提供
- ・しおさい館ボランティア室の無料開放
- ・社会福祉協議会備品類の無料貸出し
- ・ボランティア活動者の資質向上を目的とした研修会の開催
- ・ボランティア活動の斡旋

②学校ボランティアへの支援

- ・活動資金の補助（ボランティア協力校補助金 各学校6万円）
- ・児童生徒にふさわしいボランティア活動の紹介。
- ・ボランティア協力校連絡会の開催

③災害救援ボランティアセンター事業

大規模災害が発生した時、地域住民が相互に助け合うことができる関係を築き、町外からのボランティアを円滑に受け入れるため体制を作る。

- ・発災時における災害救援ボランティアセンターの運営
- ・災害救援ボランティアの募集と育成
- ・災害救援活動に関する訓練の実施。

④ボランティア連絡協議会に対する支援活動

太良町ボランティア連絡協議会が円滑に自立した運営ができるよう支援を行う。

- ・個人会員及び団体会員の登録・あっ旋の支援
- ・登録済みの個人や団体間の連絡調整
- ・登録済みの個人や団体への活動保険の補助

6. 募金等の活動

① 共同募金活動及び事務処理・管理・運営

<p>① 赤い羽根共同募金活動 【目安額：350円】</p>	<p>毎年10月～12月を募金期間として全国一斉に実施される法定募金の赤い羽根共同募金運動を展開する。 (募金使途；地域福祉事業や住民団体助成金等)</p>
<p>② 歳末たすけあい募金活動 【目安額：100円】</p>	<p>毎年12月、全国一斉に実施される法定募金活動の歳末たすけあい募金を展開する。 (募金使途；1人暮らし高齢者おたのしみ会等)</p>

② ポストショップ運営事業

家庭で不用になった衣類や雑貨等を寄附してもらい、必要とする方に廉価で販売するコーナーをしおさい館内に設置。売り上げ金は全額共同募金に計上し、社協の地域福祉活動の財源に充当する。

不用品（リサイクルポスト） ⇒ ポストショップにて販売
⇒ 売上金 ⇒ 佐賀県共同募金会へ募金 ⇒ 地域活動費に充当
※家庭の不用品を活動資金に変える仕組み

③ 太良町支会としての赤い羽根共同募金活動

学校ボランティアに協力を依頼し、赤い羽根共同募金の認知度向上と募金増額を目的に太良町十夜市会場で街頭募金運動を実施する。

- ・冠イベント・大会などの実施
- ・ボランティア団体等に活動資金の獲得機会を提供する（助成金公開審査会）

④ 24時間テレビチャリティー募金活動

町民（学生）のボランティア活動意識を高めることを目的に、日本テレビ主催の24時間テレビチャリティー募金活動に協力する。

⑤ 日本赤十字社佐賀県支部 太良町分区

日本赤十字社佐賀県支部太良町分区として、日赤佐賀県支部の事務を補助執行する。

- ・日赤会費募集：550円／目安額
- ・災害時見舞品（毛布・日用品）の配付
- ・災害時見舞金（火災全焼：15,000円／一世帯あたり）の支給
- ・日赤事業の広報・啓発活動
- ・災害義援金の募集受付と事務処理

7. 福祉関連団体への支援等

①戦没者遺族会への支援

- ・太良町戦没者追悼式の開催
- ・太良町遺族会への助成

②太良町民生委員児童委員協議会への支援

太良町民生委員児童委員協議会の事務局として、協議会の庶務を代行し、委員活動を支援する。また、行政や上部機関、専門機関などとの連絡調整を行う。

③太良町老人クラブ連合会への協力

太良町老人クラブ連合会の事業実施に協力し、事務処理の支援を行う。

④シルバー人材センター事業

概ね60歳以上の方に、ライフスタイルに合わせた「臨時的かつ短期的またはその他の軽易な就業（その他の軽易な就業とは特別な知識、技能を必要とする就業）」を提供するとともに、ボランティア活動をはじめとするさまざまな社会参加を通じて、健康で生きがいのある生活の実現と仲間づくり、地域社会の福祉の向上、活性化を目指す。

- ・新規会員（活動者）の発掘と確保
- ・シルバー人材センター利用者（団体を含む）拡大に向けた宣伝活動促進
- ・会員の適正就業の徹底
- ・会員の相互親睦を目的とした研修旅行の実施

II. 経営部門

1. 介護保険法関連介護サービス事業

①総合事業（第1号通所事業・通所型独自サービス）の実施

しおさい館での入浴、食事、機能維持訓練などを通じ、自立した日常生活が持続できるように、介護予防を目的とした内容で実施する。

対象者；要支援1・要支援2・事業対象者

②総合事業（第1号訪問事業・訪問型サービスB）の実施

要支援者等の居宅において、住民ボランティア等による住民主体の自主活動として実

施する。介護予防を目的とした軽度の生活援助等の多様な支援を想定。
支援の例；買い物代行、調理、ゴミ出し、電球の交換、布団干し など
対象者；要支援1・要支援2・事業対象者

2. しおさい館指定管理事業

①サービスの質の充実

しおさい館内で提供するサービスを充実させ、利用促進に向けた取り組みを行う。

- ・ 職員のサービス意識の徹底と接遇向上
- ・ 要望箱の設置

②しおさい館PR活動

しおさい館の利用者を増やすためにPR活動を行う。

- ・ 広報誌で定期的に情報を掲載し、設置目的や施設の持つ機能を広く周知する
- ・ ホームページの活用
- ・ デジタルサイネージを活用し、館内行事予定・各種イベントや連絡事項を告知する
- ・ 夕方5時からの入館料金の割引
- ・ 季節に応じたイベント開催

③しおさい館管理運営

しおさい館日常管理の適切かつ円滑な実施

- ・ 行政との緊密な連絡調整
- ・ 経費削減と施設不備箇所の早期発見を目的に開館前の清掃を職員で実施
- ・ 専門業者による定期的な建物の点検と管理
- ・ 利用者の安全確保と環境衛生への配慮（毎正時の浴場巡回等）
- ・ 感染症予防措置の実施
- ・ 突発的事態への迅速な対応
- ・ 管理運営費の節減
- ・ 防災訓練の実施（年間2回実施予定）
- ・ 福祉避難所としての機能維持
- ・ 経年劣化した機器の更新や修繕

Ⅲ. 法人運営部門

1. 法人組織の管理と運営

- ① 理事会及び評議員会の開催
 - ・定款の規定に基づく理事会及び定時評議員会の開催
 - ・ガバナンスの強化と法人運営の透明性の向上を図る
- ② 役職員等の研修会開催
 - ・役員及び評議員を対象とした研修会の開催
 - ・行政や上部団体等が主催する研修会に積極的に参加し、資質向上を図る
- ③ 自主財源の安定的な確保
 - ・一般会員加入と会費納入（一世帯あたり 500 円/年間）の依頼
 - ・賛助会費・特別会員の加入促進
 - ・会費の使途をわかりやすく広報する。
- ④ 社会福祉法人制度改革への対応
 - ・社協組織の体制強化
 - ・社会福祉法の改正によるガバナンス強化
 - ・地域における公益的な取り組みの責務
- ⑤ 会計および庶務業務の円滑な遂行
 - ・事業及び予算の計画的執行
 - ・費用対効果の検証を的確に実施し、経費節減・合理化を図る
 - ・会議議事録、計算書類、帳票等の適正な管理・保存
- ⑥ 福祉推進員の活用
 - ・町内全地区に福祉推進員を委嘱し、地区役員等と協働して地域福祉を推進してもらう
 - ・福祉推進員の意識及び資質向上を目的に研修会を実施し、活動を支援する

2. 法人組織の広報・啓発

- ① 広報・啓発活動業務
 - ・機関紙 社協だより『こころ』の発行
 - ・ホームページ（インターネット）を活用した財務諸表等閲覧対象書類の公表
 - ・各種イベント等のタイムリーな情報提供

社会福祉法人 太良町社会福祉協議会
〒849-1602 佐賀県藤津郡太良町大字多良1番地17
太良町総合福祉保健センター（しおさい館）内
TEL 0954-67-0410（代表） FAX 0954-67-1699
URL <http://www.tara-shakyo.or.jp>
E-mail info-0410@tara-shakyo.or.jp